

# あいのかぜ

VOL. 16

2003・秋号

【特集】子育ての楽しみ



“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。



# 子育ての 楽しみ



最近では、保育の現場でも男性の保育士が増え、家庭においても、男性の子育てへの参加が進んでいます。そこで、保育士をめざす学生の皆さんや現場で活躍する男性保育士の方々、また、子育て経験のあるお父さんなどのお話を伺いながら、現在の保育事情について知り、男性・女性が共に関わる子育てのあり方について考えてみましょう。

保育士をめざして富山短期大学幼児教育学科で学ぶ皆さんにご協力いただきました。

## 保育実習を終えた後の2年生の皆さんに伺いました

### 保育士をめざそうと思ったきっかけは？

**Aさん** 自分が通っていた保育所の先生に憧れて。

**Gさん** 都会での仕事を辞めて、保育の勉強に励んでいます。当時、子どもの幼稚園への送り迎えや運動会の準備などで、幼稚園に行くと、保育現場は女性がほとんどなのに、力を使う仕事がとても多く、男性の手も必要なのでは...と感じました。元々子どもを相手にした仕事を考えていたこともあり、やってみようと思いました。

**Hさん** 小学生の頃から近所の小さい子が、自分を慕ってくれるのがすごく嬉しかったので。

**Iさん** 「14歳の挑戦」で、現場で働く保育士や子ども達と関わり、この仕事をしたいという気持ちが高まりました。高校生の時にも保育ボランティア活動に参加し、保育士になろうと決心して頑張っています。

### 保育実習で感じたことは？

**Aさん** いろいろな性格の子どもがいるので、一人ひとりに合った対応で接することが大事だと感じました。

**Bさん** 年齢の違う子ども達と接し、1才の差がこんなに大きいんだということを肌で感じました。授業では、「この年齢の子どもだということができる」と教えられてはいたのですが、様々な驚きがありました。

**Eさん** 授業では、「こういう事例にはこう対処する」ということは学んではいたのですが、いざ子ども達と直に接した時に、「どういう言葉・どういう態度を示せば子ども達は慕ってくれるのか」をその都度考えました。また、自分が手元にいる子どもを見ている時に、周りの先生方は、広い範囲の子ども達を把握して、対応しておられました。そのプロとしての姿に、高い壁を感じるとともに、自分の目標にしたいと感じました。

**Fさん** この忙しい世の中で、「待つ」ことの大事さ、そして、ゆとりをもって子どもに接することの大切さを実感しました。また、父親としても、家庭でゆとりをもって子どもと接したいと思います。



Gさん 「どんなに良い教育をしても、何か事故があったらおしまい」ということです。親から信頼していただくためには、何といても、子どもの健康・安全が第一です。アクシデントがないように自分も十分注意していきたいと思います。



### 今後学校でこんな授業があればと思うことは？

Dさん 実習先での苦勞や失敗談をロールプレイで再現して話し合いたい。その時、どうするのが一番適切なのか、役柄を決めて再現してみることで、お互いの心に刻まれるし、より良い保育につながっていくのではと思います。

Eさん 遊び道具をみんなで実際に作ってみるような授業があれば実習に活かせると思います。

Fさん 実習の時間を増やした方がよい。また、子どもに草花や動物の名前を聞かれて答えられないこともあったので、学んでおきたいと思います。

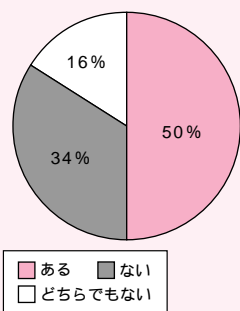
Gさん 本で「ほめほめ授業」という授業を知りました。ちょっとした誉め言葉でも子どもはすぐやる気になるかもしれません。言葉というのはとても大事なのだと実習でも家庭でも改めて痛感しています。

Iさん ちょっとした時間でも手遊びの種類を多く覚えていたら様々な場面で助かると思います。

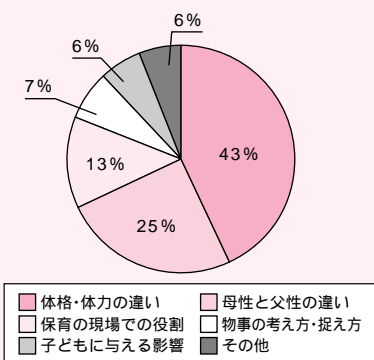
みなさん、ありがとうございました。皆さんが保育士として現場で大活躍されることを期待しています。

## インタビュー結果

1. 保育士に男女の差があると思いますか。



2. 「ある」と答えた理由は何ですか。



3. 男性の保育士が昨今、増えてきていますが、そのことに対してどう思いますか。

(複数回答)

- ・体力的な部分で遊びの幅が増えて良い。 ..... 20%
- ・保育所に「お父さん」「お兄さん」がいて、子どもが安心する。 ..... 18%
- ・力仕事が多い保育現場において役割は多い。 ..... 18%
- ・もっと増えて自然になれば良い。 ..... 16%
- ・子どもが男女それぞれの考え方に接することができて良い。 ..... 10%
- ・事件防止の観点から良い。 ..... 4%

(資料) 富山短期大学幼児教育学科の学生(回答 167名 / 女性150名、男性17名)に実施したアンケート結果に基づいています。

## 男性の実習生を受け入れた保育所の先生に伺いました

子どもたちは、男性の実習生に来ていただくと、「お兄ちゃん」と慕い、喜びます。保育所だけではなく、家庭においても同じことで、男性にはぜひ、忙しいかもしれませんが、忙しい時だからこそ、仕事をセーブして、子どもたちに目を向け、保育に参加していただきたいと思います。

男性保育士というと、初めのうち、電気のことや力仕事などを期待してしまったのですが、今では、男性・女性ということの差は無いとわかってきました。現場では、男性・女性の区別というよりも、その人の人生観・価値観・子育て観など、様々な違いがあるので、それぞれの持つ能力やキャラクターが活かされ、それぞれがお互いを補うことが大切だと思います。

同居家族のいない世帯が多い近年、保育の場での男性の役割はますます大きくなっていくと思いますので、今後保育士の増える必要性を強く感じます。

## 実際に保育の現場で活躍している男性保育士の方々にお話を伺いました

- Q 1 なぜ、保育士になったか  
Q 2 今後子どもとどのように関わっていきたいか  
Q 3 現場での自分の存在や役割は  
Q 4 女性保育士から参考になることは  
Q 5 今後保育士をめざす男性に一言  
Q 6 その他

### W保育園 H先生

- A 1 保育実習で子どもとの関わりの楽しさを感じました。  
A 2 保育目標の中で規則、決まりなどを教えながらも、子どもがのびのびと育つように関わりたいと思っています。  
A 3 男だからこうしようというのではなく、自分の個性を大事にしたいと考えています。  
A 4 子ども一人ひとりを見る細やかさを見習いながら、自分らしさを全面に出していきたいです。  
A 5 子どもとの関わりを通して感じられる喜びも多いので、技術的なことよりも心で接することが大事だと思います。  
A 6 自分が親になって、子どもが成長するにつれ、保護者の方々の気持ちが以前よりも理解できるようになりました。



らしく自然体でいきたいと思っています。

- A 4 母性としての関わり方を参考にしながらも、自分らしく子どもと接したいです。  
A 5 日々の子どもの成長が自分のことのようにうれしく感じられるような保育士になってほしいですね。  
A 6 失敗を繰り返しながら日々勉強をしています。

### I保育園 K先生

- A 1 中学生の時の家庭科の実習で子どもたちと接する機会があって。  
A 2 親と離れている寂しさを補う存在として、子どもと同じ目線に立ち、子どもの気持ちを大切にしたいです。  
A 3 重たい物を持ったりすることもあります。基本的には男女という差はないと思っています。  
A 4 男女に関わらず、声掛け一つにしても、それぞれの先生の良さがあり、自分の姿を見直せます。  
A 5 近年、男性保育士も認められてきており、信念をもって一生懸命取り組める仕事なので、頑張ってください。  
A 6 子どもに感情をぶつけるのではなく、伝えることが大事であり、言い方に配慮したいと思います。また、怪我をしないように子どもに一声かける配慮が大切ではないかと思っています。



### W保育園 T先生

- A 1 実習先で、男性保育士が活躍しているのを目の当たりにして。  
A 2 子どもに楽しいと感じてもらえるように関わりたいです。  
A 3 役割などは考えず、自分



## 男性保育士を温かく見守る園長先生にもお話を伺いました

- Q 1 男性保育士を採用した後、変化はありましたか。  
Q 2 男性保育士に望むことはありますか。

### I保育園 Y園長先生

- A 1 女性保育士がお母さんのような存在であるように、男性保育士はお父さんのような存在であり、保護者の方々の注目度は高いと思われます。だからといって、浮いた存在というわけではなく、女性の保育士ともお互い協力し、支え合っています。  
A 2 人の命を預かる仕事という意識を持って取り組む、やりがいのある仕事です。

### W保育園 Y園長先生

- A 1 家庭におけるお兄さんのような役割である男性保育士の存在は予想以上に子どもたちに刺激を与え、体操や子どもたちが求めるダイナミックな遊びに応じてくれています。しかし、保護者の方々にとっては、家庭でのことや細かいメンタルな事情などを若い男性保育士になかなか相談しにくいのではないかとということも課題としてあります。  
A 2 自分のカラーを出して自分らしく子どもたちに接してほしいと願っています。そして、後に続く男性保育士の良きモデルになってほしいと思います。





# 「育児って、 こんなに楽しいよ…」

子どもが「パパ」って、慕ってくれて楽しいです。でも、女の子の気持ちがなかなかわかってあげられないことも。ママと相談しながら、今後も関わっていきたいです。

30代 10歳女兒、6歳男児

育児は育自。いろいろな意味で自分にとって勉強になっています。

30代 9歳女兒、7歳男児、4歳男児

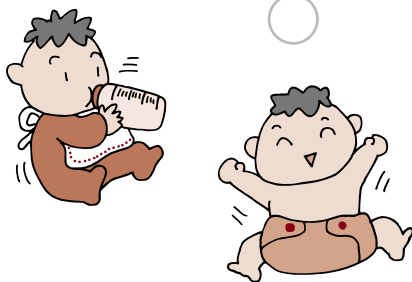
抱っこや力がある時には、男性が活躍できるチャンスです。今は育児が楽しくなるグッズがいろいろ出ているので、便利です。

40代 3歳男児



子育てに関わって、人間というのは自分中心ではいけないと真剣に感じました。男の子・女の子の接し方に差は無く、むしろ上の子と下の子の接し方が同じようにはできていないかもしれません。ほとんどの家庭で、同じ傾向があるのではないのでしょうか。

40代 14歳男児、10歳女兒



育児休業中は、子供とゆっくり関わることができました。その間、子どもについて理解が深まり、また、他の子を連れてお母さん方と自然にお話することができました。保育園への園児の送迎では、父親の姿を見ることは多いのですが、保育園の保護者会などでは、まだまだ父親の参加が少ないので、皆さん、ぜひ参加してみたいかでしょうか。

40代 4歳女兒

江戸時代には、武士が子育てをするために、仕事をいそいそと切り上げ、家で子どもをあやすことの楽しみについて触れた書物もあります。

しかし、現在では、父と子の触れ合う時間は非常に短くなってきていると言えます。

今回、男性の保育士や男性の育児参加について焦点を当てたのは、次世代では、男性が育児に関わることが自然なことになってきているのではないかという潮流を感じたからです。

今回の取材において、女性と男性がともに手を取り合って子どもに触れ合うことの大切さを実感しました。子育て期間は、思ったより長くはありません。子どもの身体のぬくもりを感じられるのはほんの数年しか無いのです。それを女性の仕事と決めてしまうのは、あまりにもったいないと思いませんか。

子育てパパへのインタビューで「育児は育自」と語っていただけたことがとても心に響いています。女性の手助けではなく、男性もぜひ、一緒に子育てをして「育自」してみませんか。

# 「Duoのつどい」・「男女共同参画推進フォーラム2003 & タウンミーティング」に参加して

6月23日から29日の「男女共同参画週間」に併せて、内閣府主催の「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」を始めとして、県及び市では様々な取組みが展開されました。その中で、県・市における催しに参加しました。

## 男女共同参画週間Duoのつどい

6月29日  
於：とやま自遊館（湊入船町）

富山県部門功労（男女共同参画）表彰及び「男女共同参画推進事業所」の認定に続いて、ノンフィクション作家の沖藤典子氏による基調講演が行われました。

「男女共同参画でつくる元気な社会、ゆたかな社会」と題し、昨今の男女共同参画に関する情勢、ご自身の出産・子育て期間における社会・地域等の環境や夫婦関係の話を交えながら話されました。

家庭・地域・職場において男女共同参画を進めることで、能力ある女性の積極的な社会進出によって、職場の活性化を促し、家庭生活における経済的・精神的な潤いの増加を生むこと、一方、男性にとっても、仕事だけでなく、積極的な家庭・地域への参加が定年後の人生を豊かにすることなど、大変興味深い内容でした。

会場には、たくさんの来場者が集まり、改めて男女共同参画社会の実現に向けた県民レベルでの盛り上がりを感じました。



## 男女共同参画推進フォーラム2003 & タウンミーティング

7月5日  
於：富山市民プラザ（大手町）

「富山県男女共同参画推進条例」施行（平成15年4月1日）記念事業として開催されました。まず、東洋大学経済学部助教授の白石真澄氏による「すべての人が自分らしく生きるために」と題した基調講演がありました。ご自身が感じる男女の役割意識による家庭・地域・職場におけるデメリットや、ご自身の出産・子育て体験、国際比較など様々なデータを基に、日本の男女共同参画への取り組み状況や、男女共同参画社会の実現に向けて、これからの企業に求められる役割についてなど、シャープな語り口で理解しやすい内容でした。

後半には、白石氏をコーディネーターに迎え、森市長と市民の間で「男女がともに輝いて生きる『男女共同参画社会』をめざして」と題したテーマのタウンミーティングが行われました。「富山県男女共同参画推進条例」の特徴についての市長の説明から始まり、会場からは、多種多様な意見が寄せられ、市長自身の体験に基づいた考え方を分かりやすく伝えるなど、会場は富山県がめざす男女共同参画社会について一体となって考え合う意義深い場となりました。



# 男女共同参画推進センターってどんなところ？

平成15年4月1日に名称変更した「富山市男女共同参画推進センター（旧「富山市女性交流センター」）を訪ね、職員の方にお話を伺いました。



男女共同参画推進センターでは、男女がともにいきいきと暮らせる社会の実現を目指して、各種講座やセミナーなどの学習啓発事業を実施しています。また、女性の身の回りに起こる様々な問題についての各種相談が行われているほか、全国各地のミニコミ誌や男女共同参画に関する本・雑誌の閲覧など、各種情報を入手することができます。

さらに、40人程度で利用できる交流室（要予約）やフリースペースがあり、少人数でのミーティング・交流に利用できます。講座・セミナー、各種相談などは、託児を行っているので小さなお子さんがいる方でも安心して参加できます。

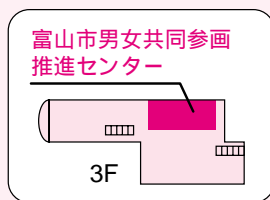
センターの方に伺ったところ、女性の方の利用率が圧倒的に高いそうです。男性の方の参加を促すために男性向けの企画も検討されているそうなので、参加されてはいかがでしょうか？

今まで男女共同参画の知識が全くなかった私も今回の取材で非常に問題意識が高まりました。そして、よりよい男女共同参画社会を実現するためには、一人ひとりの意識が大事なのだと感じました。難しいことは考えずに興味がある方もなかった方もぜひ一度、男女共同参画推進センターに足を運んでみてください。

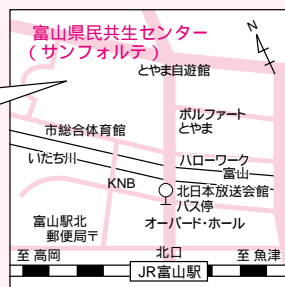


（取材：高岡法科大学3年 久野木 晋...インターンシップ実習において）

## 富山市男女共同参画推進センター



富山駅北口より徒歩10分  
バス停「北日本放送会館前」から  
徒歩5分



〒930-0805 富山市湊入船町6-7  
（富山県民共生センター「サンフォルテ」3階）  
tel 076(433)1760 fax 076(433)1761

**開館時間** 火～土曜日 午前9時から午後9時  
日曜日 午前9時から午後5時

**休館日** 月曜日、国民の祝日、  
12月29日～1月3日

**使用料** 無料

## 男女共同参画とやま市民フェスティバル ～女と男のつどい2003～ 「とやま発 女と男の夢のせて」

**とき** 平成15年11月30日(日)  
9時30分～15時

**ところ** 富山県民共生センター(サンフォルテ)

**内容**

- ・講演会  
「皆がしあわせになるための  
男女共同参画」
- 講師 東海林 のり子 氏  
(キャスターリポーター)
- ・展示(作品、活動発表など)
- ・ワークショップ 他  
.....ぜひお越しください。



### HPアドレス

<http://www.city.toyama.toyama.jp/institution/suishin-center/index.html>  
富山市のホームページからもご覧になれます。  
E-mail [suishin-01@city.toyama.lg.jp](mailto:suishin-01@city.toyama.lg.jp)

## 女性専用外来

女性にとって、身体の悩みがあっても男性の医師には相談しにくい場合もあります。そんな時、同性である女性の医師に対してなら、どんな悩みでも話せるかもしれません。男女には身体的に大きな違いがあり、そのような違いを認識した上での治療が必要となってきました。富山市民病院では、平成14年10月2日から、女性の医師とスタッフで対応する「女性専用外来」の診療を行っています。受診される女性に落ち着いていただけるように、ピンク色でコーディネートされた診療室にて、1人当たり約30分間とゆったりした時間の中で、対話を大切にしながら診察いたします。

更年期の悩み 思春期の悩み 不妊症  
乳房の相談 骨粗鬆症 動脈硬化性疾患  
高コレステロール血症 他

診療結果によっては専門診療科の診察を受けていただくこともあります。

平成14年度の診療件数（10月～3月）

初診 132件 再診 67件 合計 199件

診療時間：毎週水曜日 午後2時から午後5時まで

場 所：富山市民病院2階 産婦人科

（女性専用外来）

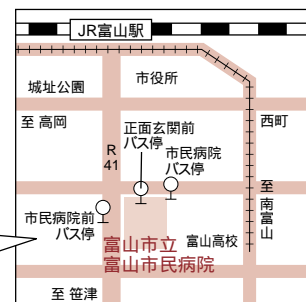
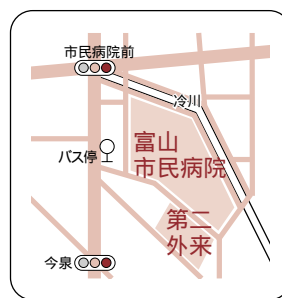
予約方法：完全予約制ですので専用電話でご予約ください。

直通 422 - 1035

予約受付：毎週月曜日から金曜日までの午後2時から午後5時までにお電話ください。



専用出入口があり、温かい雰囲気の診療室です。



## 編集後記

縁もゆかりもない富山に、夫の転勤で関西から引っ越してきました。越えてきて間もない頃、子どもを連れて行った児童館で、ふと見つけた「あいのかぜ」。

以前から、ずっと経験してみたかった編集の仕事。私でもできるかしらと無謀にも応募してみると、何と編集委員に。

子どもが熱を出したりして大変でしたが、世代を越えて協力し記事を作り上げること、取材でなければ出会えない人に会えること、何もかも初めてづくしですが、その一つひとつの作業を経験することに、とても感謝しています。

小山ゆづ子

男女共同参画ってなんだかとても堅苦しくていぶかしげな言葉だけど、要は男も女もお互いを認め合って尊重しあって暮らしていきましょうってことなのです。これってものすごく大切なことですよ。

男女共同参画をもっと身近にもっと当たり前に市民の皆さんに感じてもらえるように、普通の主婦の私が自分の目線や言葉で「あいのかぜ」でわかりやすく伝えていけたらいいなと思っています。2年間よろしく願いいたします。

布施小百合

編集委員に決まって早5ヶ月が過ぎ、良い仲間にもまれて秋号の発行に至りました。発行までの過程では、自分育てに有意義なこともたくさんあり、編集に参画させて頂いて感謝しています。取材にご協力頂いた皆様に感謝しつつ、次の春号へと心は飛んでいます。

子育てを楽しむというテーマに基づいて貴重なお話を聞かせて頂き、心優しく接すれば心優しい子どもたちが育つのではと思いました。（行く言葉美しければ、来る言葉美し...）と言いますね。

夜久 文子

タイトルの「あいのかぜ」は、「私(英語でI)の風」、「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」、「愛の風」を表しています。

編集・発行 富山市民生活部男女共同参画課  
〒930 8510 富山市新桜町7-38 Tel. 076 443 2051  
Fax. 076 443 2176

「あいのかぜ」へのご意見・ご感想をお待ちしております。  
[宛先] 〒930 8510 富山市民生活部男女共同参画課(住所記載不要)  
[アドレス] danjyo\_01@city.toyama.lg.jp